

特250

708

事業投資・研究パンフレット (廿四)

躍進飛躍する化學工業界

東京株式取引所

一般短期
實物

取引員

国松

野

屋

商

店

中

村

貫

一

郎

始



250
708

はしがき

近來實物市場の賑ひは非常なものでありまして一日に十四五萬株の賣買がある有様從來にない記録であります。これは漸く我が經濟界が本格的の景氣圈内に這入つて來た事を物語るものでありまして、低金利と、事業利益の増加から來る採算的投資の表現であります。次から次へ有利な、埋もれてゐた實株が探し出されてゐますが、此處に記述しました化學工業關係株は其の最も代表的なものであり、充分吟味して調査しましたから格好なる投資物として推薦致すものであります。

御愛讀と御利用を冀ふ次第であります。



三月下旬

国松野屋商店
中村貫一郎

目次

未曾有の活況裡にある化學工業界……………(一)

化學工業の重要性……………(三)

窒素肥料界の現状と前途……………(五)

日本窒素……………昭和肥料……………三池窒素……………東洋高壓……………滿洲化學……………電氣化學工業

磷肥會社一束……………(二二)

大日本人肥……………日東硫曹……………其他

曹達工業の現状と將來……………(二四)

日本曹達……………大阪曹達……………其他

アルミニウム工業……………(二九)

日滿アルミ……………日本沃度其他

其他の化學工業會社……………(三三)

日本硫黃……………日本酸素……………日本火藥……………東京硫酸……………東海電極……………日本カーボン

……………オリエンタル寫眞工業……………其他

躍進飛躍する化學工業界

未曾有の活況裡にある化學工業界

我が國の工業界は、昭和六年末の金輸再禁止を一轉機として一大轉換期に直面した。從來の纖維工業中心の輕工業形態から、新たに鐵鋼、機械製作、化學工業等を中心とする重工業形態へと轉化し來り、これらの諸重工業は、政府の膨脹豫算、特に一九三五—六年の危機に備へんとする大軍事豫算に支援せられ、他面爲替下落による外國競争品の輸入杜絶の好機會に遭逢して、月と共に年と共に躍進又々々、投下資本の額に於ても、利益の收得力に於ても、斷然トップを切つて向上飛躍してゐる。

今其の状態を本書の目的とする化學工業に就いて調査して見るに、先づ日本勸業銀行の調査による工業會社に關する諸統計中、昭和八年中に於ける化學工業の資本増加は一億四百萬圓に及び機械工業の八千一百萬圓、染織工業の二千一百萬圓を遙かに超えてゐる。事業成績は化學工業諸會社平均利益率に於て六年下期の五分一厘から七年上期の七分八厘同

下期の一割五厘、八年上期の一割五分へと驚異的向上を示し、配當率は六年下期の三分五厘から八年上期の八分七厘と二倍半の飛躍である。

以上の勸業銀行調査は人絹、製紙等も這入つてゐるので更に純粹の化學工業として本編に取扱ふ諸會社の中重要なものゝ平均を調査したものに依れば左記の如く

	利 益 率		配 當 率	
	七年下期	八年上期	七年下期	八年上期
肥料業	〇・八九	一・三八	一・五二	〇・二九
化學工業	一・四四	一・九九	二・〇三	〇・六三
			〇・八〇	一・〇二

非常なる進歩の跡を示してゐる。

本年に這入つてからも、大日本人肥の拂込徴收、日東硫曹、日本曹達、日本硫黄、日本沃度の増資等、擴張、増資相つゞ有様で、此の一角は實に産金事業、鐵工業を凌ぐ程の黄金時代を迎へてゐるのである。

斯くの如き次第であるから、最近市場に於ける雜株物色買ひ人氣の中で化學工業關係の株式が目立つて活躍してゐるのも充分根據のあるものと言ふべく、其の將來の發展性に就

ても亦確信を持つて期待してよいのである。

化學工業の重要性

化學工業と一口に言つても其の内容は頗る複雑で硫安並過磷酸製造工業、曹達工業、油脂工業、アルミニウム製造工業、火藥其他一般工業藥品製造工業等多岐に亘つてゐるが熟れも軍需品として重要な地位を占め、且つ又諸種製造工業の原料となるものである。

硫安及過磷酸は無論肥料として役立つものであるが、又硫安及石灰窒素の主要成分たる窒素が直ちに火藥の原料となるものである事は何人でも知つてゐる。過磷酸會社は過磷酸製造の原料たる強硫酸の製造を其の仕事の大半としてゐるが、これ亦爆發物の原料となり石油、人絹、染料等の事業にもなくてはならぬものである。

曹達工業の製品たる曹達灰は苛性曹達、洗濯曹達、重曹の原料であり、硝子製造用としては最も多量に需要される。其他製紙用、石鹼製造用、木綿、毛織物の精練、工業藥品製造用に使用される。

苛性曹達は人絹製造に必須のもので、製紙用、石鹼製造、シルケット製造其他曹達灰と

同様の用途を持つてゐる。

芒硝（硫酸曹達）は硝子、製紙パルプの製造用に使はれる。重炭酸曹達は重曹と呼ばれるもので醫藥用、ベーキングパウダー、粉石鹼の製造用に使用される。

硫化曹達は硫化染料の製造及煤染劑、染色用脱毛劑に使はれ、結晶のものは寫眞着色劑となる。鹽素酸加里は燐寸、爆藥、花火等に主として使はれ、其他染料、醫藥（含嗽劑）として使用される。

晒粉は製紙用パルプの漂白、綿絲布の漂白に使はれるが、これは食鹽を電解して前記曹達類を製造する際に出来る副産物、鹽素から造るものである。

合成酸鹽、これも右の鹽素と水素を混じたもので、味の素や醬油等の調味料製造用になる。液體鹽素は毒瓦斯として使はれ、水道下水の消毒用、漂白、染料製造用にも利用される。

油脂工業の製品は先づ第一に硬化油であるが、これは魚油、大豆粕等を水素を吹き込んで固めたもので石鹼の製造原料である。曹達製造の際水素が多量に副産物として出るので曹達會社はよく油脂工業を兼營するのであるが、獨立して油脂を製造する合同油脂の如き

會社があり、グリセリン、ステアリン、オレイン等をも製造する、これらは醫藥用爆發物製造用に使はれる。

アルミニウムが飛行機其他軍器の製造に使用される事及び吾人の日常生活の必須品となつてゐる事は言ふ迄もなからう、其他火藥、セルロイド、硫黃、酸素、カーボン、沃度等の製造會社も化學工業に包含されるが、皆軍事並に諸工業の基礎原料たるものである。

今後の重工業中心時代に於て、軍備充實時代に於て、これ等化學工業會社の占める重要な地位に就ては最早再言する必要もあるまい。

窒素肥料界の現状と前途

我が國窒素質肥料の生産高は年々増加する一方で昭和元年頃の硫安製造高十五萬噸位であつたものが、昭和八年には六十九萬噸に達してゐる。消費高は元年頃四十萬噸であつたが、八年度は百萬噸に近くなつてゐる。不足分は輸入されるのであるが、輸入は次第に減少し、昭和元年の三十萬噸から八年度は只の六萬八千噸になつてゐる。今一步で自給自足となる處で、一方以前は全然なかつた輸出が二萬噸位あるから、本年度の如き輸入は不要

であるときへ言はれてゐる。

過般商工省から発表された需給推算によると十三、四萬噸の供給不足となり、それだけを輸入する要があると言ふ事であるが、これは内地生産見込を八十三萬噸も見つて、尙不足すると言ふのであるから要するに需給トントンとなり前途は非常に有利なる状態にあると言はねばならぬ。

値段は一年程以來あまり昂らぬが昨今十貫目三圓五十錢で一昨年の三月頃二圓五十錢であつたに比すれば非常な騰貴である。

石灰窒素は生産能力二十四、五萬噸のもので實際は十七、八萬噸生産されてゐる。未だ消費者たる農民の間に認識が高まらぬので需要が少く値段は硫安より安いにも拘らず賣行きが少いのである。従つて生産高もあまり増加せず、昭和元年頃十四五萬噸を生産してゐたのを考へると僅々四、五萬噸の増加に過ぎぬ。石灰窒素は大抵硫安會社が兼營してゐるので斯ふ云ふ状態にあつても別に會社の業績に響かぬが中に電氣化學工業會社だけは石灰窒素専門で従來はこれを硫安に變成して賣り出してゐた。硫安のコストは大體一噸五十四五圓で最近の相場は九十四圓石灰窒素はコスト四十三圓位、賣値七十八圓位である(但し借

入金の子等別計算として)

窒素質肥料の生産會社は、日本窒素、朝鮮窒素、昭和肥料、大日本人肥、住友肥料、電氣化學工業、三池窒素、等で八年中に新設された滿洲化學、東洋高壓、宇部窒素等も本年下半年からは製品を賣り出す事になる。さうすると、従來七十八萬噸位の生産能力であつたものが右の新設會社の外既設の朝鮮、昭和、住友等の増産計畫と相俟つて百三十七、八萬噸の能力となり、いさゝか能力過剰となるが、それは大部分輸出向として賣られるから需給状態には狂ひはない筈である。尙肥料會社は近來硫安よりも化學藥品製造に主力を注ぐ傾向にありその多角經營による収益増加は目立つて來た。

日本窒素肥料

公稱資本金九千萬圓、拂込五千六百二十五萬圓の大會社である。八
年下期の利益率一割一分八厘、配當は八分、舊株(五十圓拂込)が八十三圓八十錢、新株
(十二圓五十錢拂込)が三十六圓九十錢してゐる。

製品は硫安と石灰窒素、化學藥品類で、硫安の年産能力十二萬噸であるが、八年上期は
四萬三千噸、下期四萬七千噸の製造を行つてゐる。石灰窒素は年一萬五千噸、外にカーバ
イト、硝酸、醋酸、無水アンモニア、硝酸アンモニア等を製造する、カーバイトと云ふの

は炭化石灰と言つて石灰窒素の原料であり、燃料、醋酸合成にも使はれる。硝酸は火薬の原料である。併し當社は五千六百萬圓もの投下資本をこればかりの生産事業に使つてゐるのではない。御承知の通り朝鮮窒素、旭ベンベルグ、日窒火薬、等へ投資してゐるので、朝鮮窒素は六千萬圓の資本で全額拂込の會社である。旭ベンベルグは四千六百萬圓内拂込三千二百五十萬圓の人絹會社だ。前者は其全額、後者には二千六百萬圓を投じてゐて、この配當が當社の業績を左右する事至大である。朝鮮は目下無配當、旭ベンベルグは一割配當をしてゐる。日窒火薬は一割配當だがこれは極く小さいからあまり關係がない。朝鮮窒素は八年前上期まで五分配當をしてゐたが、八年下期から無配にした、利益がなくなつたわけではないが借金が多いのでそれを整理する爲めに無配としたので、日窒としては自社の硫安及化學藥品の利益が多くなり、朝鮮の配當をとらぬでもよくなつたからである。

處で、此の朝鮮窒素は無配にしてゐるけれども八年下期に利益率二割二分を擧げてゐる右の如く借金整理の爲に無配として將來に備へた外今大事業を企畫してゐる。

それはアルミニウムの製造であつて、朝鮮總督府と共同で明礬石からアルミニウム原料をとる研究をしてゐる。來年九月、目下新設中の長江津發電所の完成次第此の電力を

利用してアルミニウム工場を建設する筈である。其の外、硬化油、グリセリン、醋酸、クレゾール、ペークライト（火薬の原料）を製造する等化學藥品類にも進出してゐる。現在の利益が続けば一、二期後には配當を復活する事が出来る。其處で日窒は朝鮮の長江津水力發電所設備の資金をつくる爲に近く新株の第二回拂込を徴集する筈である。當社としては株主への利益分配の手段ともなるので、九年前上期は据置きとなるらしいが、利益は硫安、化學藥品の好調で一層増へ、旭ベンベルグの配當も今期は増へるであらう、特に化學藥品に力を注いでゐるので其の將來が待望される。今上期の利益金四百三四十萬圓、利益率一割五分は確實と見られ、下期には二分位の増配が實現するであらう。株價はまだ割安、買餘地がある。

昭和肥料 資本金三千萬圓、拂込一千八百七十五萬圓の會社で、昨年までは一千五百萬圓の資本であつたが、倍額増資して新株に十二圓五十錢を拂込んだので前記の通りになつた。東電、東信電氣の子會社で昨年株式賣出まではあまり知られなかつたが、八年下期は利益率三割三分を擧げ創立五週年を紀念し一割配當の外二分の特配を行つた。能力は硫安十八萬噸石灰窒素六萬噸で製品は全購聯に特約販賣してゐる。藥品の方は作つてゐない

が、能力倍加の工事を遂行中であるし子会社に日本沃度日本火工等の時局会社があり、一割配當は動かぬ所である。當社の特色は固定資産が安く従つてコストの低廉な事である。目下舊株八十七圓三十錢、新株三十五圓二十錢の値段で新株は割安である。

三池窒素 資本金一千萬圓、拂込五百萬圓三井鑛山の子会社で、硫安年産四萬噸の能力を持つてゐるが、實際は三萬噸位の生産である。昭和六年八月に出來た会社で新しい会社であるからコストも比較的安い。八年下期利益率一割八分、配當は一割を行ひ、株價(二十五圓拂込)四十七圓弱である。

東洋高壓 三池窒素と同様三井鑛山直系の会社で昨年創立されたばかり、まだ製品は出て居らぬ。製法が最も進歩したクロード式とデュボン式の併用によつて行はれ、起業費の安い事を特色としてゐる。資本金二千萬圓、目下一株十二圓半の拂込で五百萬圓の拂込会社であるが、來る四月二日第二回の拂込一株七圓五十錢を徴收する。來年初愈々製品を賣出す曉は一割配當は確實と言はれ、コスト四十五圓と計算されてゐる、この通りに行けば實際非常な低コストであるから一割配當は容易であらう。昨今一株(十二圓五拂込)が二十九圓九十錢してゐる。

滿洲化學工業

資本金二千五百萬圓拂込一千二百五十萬圓、當社も昨年設立されたばかりの会社、滿鐵、金購聯が大株主で、ウーデー式アンモニア合成法により硫安年産十八萬噸を製造する。來年初め製品が出る豫定でコストを四十七、八圓に見てあり、豫想配當は一割と言ふことになつてゐる。株價は目下三十五圓である。

電氣化學工業

資本金二千八百萬圓、拂込二千九十九萬圓の会社である。石灰窒素に主力を注ぐ会社であるが、硫安七萬噸、石窒八萬噸を生産する。硫安は石窒を變成したものである。變成硫安の採算は合成アンモニア法による直接硫安に比し非常に不利であるが、近來漸く石灰窒素の需要が喚起されて來たので今後は有利に轉回するものと考へられる。

石灰窒素製造の副産物たるアセチリンガスからベンゾールが造られるが、これは火薬や化學工業染料工業の原料となる。又不良石窒から尿素を抽出し、紫外線機、不破損ガラス不燃フィルム等がとれる。同時にジアン(デアミード)と言つてゴム工業の原料も出來る。石灰窒素の原料たるカーバイトからは硅素鐵や、カーボランダが出來る、こんな具合で當社は化學藥品の方に力を入れてゐるから今後の業績は期待される。

八年下期は百二十八萬八千圓、率にして一割四分八厘の利益を得、八分配當を行つた。化學藥品への方向轉換で將來は増配を豫想される。目下の株價舊六十七圓、新(二十五圓拂込)三十七圓、利廻り舊五分九厘七毛、新五分四厘になる。

燐肥會社一束

我が國燐肥の生産高は一ヶ年百萬噸に及び消費高もそれに伴つてゐるが、業界に統制をみだる多木肥料があつて絶えず賣崩しをするので値段がいつも冴えず不振であつた。しかし最近はむしろ藥品工業の方へ轉換する傾向が強く、そのお蔭で各社とも向上しつゝある。過燐酸のコストは一噸九十七錢で相場一圓十七錢であるから一噸二十錢の利益となる。一噸は七貫五百匁(二十八匁)入りである。

	拂込資本金	利益率	配當率	過燐酸能力
大日本人肥	二八、六九〇 <small>千圓</small>	一・二七	〇・六〇	二六六、六九四 <small>噸</small>
日東硫曹	三、三〇〇	〇・九二	〇・五〇	六二、九〇五
帝國人肥	一、〇〇〇	〇・四三	〇・三〇	二九、〇六三

ラサ島燐礦

五、五五〇

〇・六〇

八〇、四七一

大日本人肥 は化學藥品の成績よく、又子會社たる合同油脂や、日東硫曹の増配で向上しつゝある。八年下期は一分増配した。今期も一分増配される豫定である。株價は目下舊六十三圓九十錢、新(二十圓拂込)二十九圓八十錢、新株は五月一日期限で一株十圓宛の拂込を徴收される事になつてゐる。これは曹達、セメント、顔料、澱粉、醫藥、硫安等の新設又は増産の經費として使用されるのである。

日東硫曹 は元日東硫肥と稱してゐたが、昭和七年日本硫曹を合併して現名になつた。近來業績良好となり、今期は三分位の増配は確實で、尙五百萬圓に増資の計畫があり、今期中に實現する筈である。株價は五十五圓五十錢してゐるが増資増配を好感して激騰する可能性がある。

ラサ島燐礦

は缺損會社であつたが、借金を整理し、今度減資を行ふ事となつた。舊株二株を一株に、二十圓拂込の新五株を五十圓拂込株一株に引替へられる。そして九月の決算期から配當を復活するが、多分五分配當となるであらう。株價は舊二十八圓五十錢、新十一圓十錢してゐる。當社も本業たる過燐酸より晒粉、苛性曹達等の藥品の収益がよく

その方へ力を入れてゐる。

帝國人造肥料 は過燐酸三萬九千噸の能力を持つてゐるがあまり振はない。株價八圓八〇錢位である。

曹達工業の現状と將來

曹達工業が諸産業の基礎たる事、又軍需工業に關係深き事は前に記した通りであるが、我が國の曹達工業は其の發達新らしく、金再禁前まではあまり良好な成績を挙げ得ないでゐた。それは海外より優秀にして低廉なる製品が輸入されてゐた爲めで英國ブラナモンド及米國品のそれである。然るに金再禁後は爲替の下落並に七年六月の關稅附加稅三割五分の賦課によつて外國品の競争がなくなつた上に、人絹、製紙等の活況につれて需要増加著しく、又晒粉には共販會社が成立して統制確立し、晒粉の高度減産をカゾーする爲液體鹽素の利用方法が研究され、その方面の收入が増加した等の原因から俄かに業界は活氣づいて工業界稀に見る花形産業と化したのである。

最近は又此の液體鹽素の統制をも晒粉共販會社の手で行ふ事に決定、この方面に於ける

無統制から來た不利益をも除去する事が出来ることゝなつた。鹽素は毒瓦斯であつて、軍部の支援もあり、其の前途は甚だ有利なる利用場面を有してゐる次第である。

我が國曹達灰の生産高は七年度十三萬四千噸、輸入が四萬六千噸あつたが、八年度には生産二十七萬二千噸に及び、輸入は全然なくなつた。九年中には三十四萬噸の生産能力となり需要高三十萬噸には多少剩る事になる。これは輸出向とされるであらう。苛性曹達は八年度五萬一千噸生産され七年度の四萬一千噸より一萬噸増加してゐるが、尙一萬二千噸程の輸入が行はれてゐる。これも今年中には増産設備の完成で輸入を不要とするに至るのみならず、輸出に轉化する事になる筈である。否、既に七、八年度にも四・五千噸ではあるが輸出してゐる位である。晒粉は生産高八年度五萬噸を生産し、輸入は前から全然無く輸出三千噸位を行つてゐる。元來晒粉は曹達灰を造るに際し、其の二倍以上のものが出来るので、需要がこれに伴はず供給過剩となるので、高率限産を行つてゐるが、最近是人絹製紙のパルプ漂白用として可成り需要が多くなつて來た。

相場は七年八月頃苛性曹達百貳六、七圓、晒粉百封度三圓位してゐたのが、現在では前者廿一圓、後者四圓七十錢してゐる。コストは完全にわからぬが曹達と晒粉を綜合して曹

達百疋、晒粉二百十疋を製造するのに三十二圓を要し、現在賣値は四十九圓位であるから此の差益が十七圓となる。七年の上期頃は僅かに一圓程の利益しかなかつたのであるから近來曹達會社の活況もうなづける處である。

日本曹達 當社は資本金三百六十萬圓、二百五十萬圓の拂込であつたが、今回未拂込全額を徴集の上、増資を執行一千萬圓の資本とする。新株は十二圓五十錢の拂込であるから拂込五百二十萬圓の會社となる。曹達、晒粉の外液體鹽素、過酸化曹達、鹽素酸曹達、鹽素酸加里、青化曹達等の曹達類、硬化油、エチレン・グリコール、滿俺鐵、硅素鐵、燐鐵、鏡鐵の各合金鐵、電氣亞鉛、硫酸、硝酸、金屬ナトリウム等八十餘種に亘る製品を持つてゐる。曹達會社と言ふよりは電氣工業會社と云ふ方が適切な會社である。

これらの製品は前にも記した人絹、製紙、醫藥、燐寸、爆藥原料、金精煉鍍金用、石鹼原料等に使用される藥品で、合金鐵は製鋼材料、金屬ナトリウムは人造藍、人造香料、發光藥に使用され、電氣亞鉛は軍需品、白粉原料等となると云ふ具合に悉く時局に關係のある製品のみである。

當社は過去の成績も優良で、最も成績の悪かつた大正十一年上期に一割二分の利益率に

なつた外何時も二割以上の利益率で、八年下期の如き六割と云ふ超高利益率を擧げてゐる配當も七年下期まで八分、八年上期は一割、下期は一割二分と引續き増配し、實に化學工業會社の中では稀に見る優秀な會社である。それは當社の製品が多方面に亘つてゐる事と自家用發電所を二ヶ所も持つてゐる爲、安い電力を使用し得る事、絶えず新製品を出して行つてゐる事等にあり、今回の増資は二本木工場の擴張と、富山縣高岡、東京府下に工場を新設して藥品染料の製造を開始する爲めであつて現在六割と云ふ利益率を擧げてゐる當社が増資後の配當一割二分を維持するのは實に易々たるもので、増配も期待出来る。又増資新株には第二回の拂込徴收があまり遠くない事を考慮に入れてよい。目下の株價百四十圓、若し五分五厘に買ふと百十圓であるから残りは新株のプレミアムと見てよからう。親の六掛のプレミアムは三十六圓であるから、新株は拂込の十二圓五十錢とで四十八圓五十錢まで出ると見られる。親も無論だが、今度出る新に買妙味がある。

大阪曹達 二百萬圓の資本で百六萬二千圓の拂込である。八年下期七割の利益率を擧げ二割八分の配當をした。二割は特別配當で、上期もやはり同様であつたから驚ろくべき配當である。しかも内部保留が利益金の五割と言ふのである。不況期中も八分配當を行つ

てゐたのであるから無理もない所、日本曹達と好一對である。内容が充實してゐるから今後も此の状態は続けられる。近く尼ヶ崎工場の擴張資金を得る爲新株の拂込が徴收せられるであらう。

株價は舊百七十六圓、新百十圓である。

其他の曹達會社も皆好投資物で、左に表示さる。

資本金	千圓	配當率	株價	圓	今期豫想配當	割
北海曹達	三、〇〇〇	一・〇〇	九三・八〇(四五圓拂込)		一・〇〇	
昭和曹達	一、五〇〇	二・四〇	一二〇・〇〇(二〇圓拂込)		二・四〇	
東海曹達	一、二五〇	一・六〇	新 九五・〇〇 舊 五七・〇〇(一二圓半拂込)		一・八〇	
南海晒粉	三、〇〇〇	一・四〇	九一・五〇		一・四〇	
保士谷曹達	七〇〇	一・〇〇	一〇五・〇〇		一・〇〇	
東洋曹達	九六〇	〇・八〇	新 八五・〇〇 舊 四五・〇〇(廿圓拂込)		一・〇〇	
旭電化	二、〇〇〇	〇・八〇	九一・五〇		〇・八〇	

右の中北海曹達は増資計畫中東海曹達も擴張計畫を持つてゐる。保士ヶ谷曹達は三倍増資を決定、三月十五日現在の株主に舊一株に一株を割當てた。

アルミニウム工業

アルミニウムの製造は電氣工業の一部門であるが、我が國では漸く其の緒についたばかりである。年々一萬二千噸を海外から輸入し此の金額は一千數百萬圓に及んでゐる。しかも此の需要は益々増加し飛行機、電線、自動車、厨房用品、電氣器具、染料等利用の範圍は頗る廣いのである。我が國では可成り前から其の製造について研究されてゐたが、工業的に採算の立つ見込みがなかつたので、未だ成立しなかつた。しかし、昭和五、六年頃一噸九百圓であつたアルミ板が昨今では千九百圓の時價を呼んでゐる有様で其の製造は朝野の待望する處であつた。製法に原料に問題が多いが、さう云ふ事は抜きにして、最近其の製造に着手した日滿アルミニウム會社と、日本沃度の二社を紹介しやう。

日滿アルミニウム 日滿アルミは五百萬圓の資本金で現在は百二十五萬圓の拂込である。アルミニウムを製造するのが主目的で、原料は滿洲及朝鮮産のアルミナ原鑛礬

土頁岩を理化學研究所が特許權を有する理學博士鈴木庸生氏發明の方法によつて處理し、金屬アルミニウムを製造するのであつて、第一期計畫として年産五千噸の能力を有する工場を完成し漸次擴張して行くこと云ふ事になつてゐる、軍部の後援もあり、滿鐵の設立する滿洲アルミニウム會社とも密接な關係を持つてゐるので原鑛石の供給は心配なく、最も多量を要する電力は頗る安價に得る事が出来る。

當社の目論見によれば、最初に六十七萬五千六百圓の利益を得、利益率一割三分五厘であるから七分配當は間違ひないとなつてゐる。此の計算はアルミニウムを一千圓に賣つた時の計算で時價一千九百圓と言ふ値で賣れば、二割以上の利益率、一割の配當は充分出來ると言ふ計算である。

まだ配當はして居らぬが建設利息配當四分をする筈で、最近大阪方面に假工場による製品見本を出したと言ふ事である。

十二圓拂込の株が、最近三十圓を稱へられ非常に人氣を得てゐる。

日本電氣工業(日本沃度改稱) 當社は化學藥品會社でアルミニウム製造は其の一部分の仕事である。現在六百萬圓の資本であるが、倍額の千二百萬圓に増資する事に決

定し、三月末の株主に舊一株に對し新一株を割當てることになつてゐる。

最初海草から沃度をとる目的で創立された會社で當時は五十萬圓の小會社であつた。それが昭和七年に他の藥品製造に進出し百萬圓に増資八年度になつて三百萬、更に八年末六百萬圓に増資した。今回で一千二百萬圓の會社になるが、來春までには五千萬圓迄に増資される豫定であると言ふ。藥品としては最初に鹽素酸加里を製造し、非常に優良な製品を出したのでたちまち増資擴張と發展したのである。鹽素酸加里と言ふのはマッチの原料である。現在同社の製品は

一、沃度(粗製沃度、純沃度、沃度加重)

二、鹽素酸加里、硝酸加里、鹽酸曹達、過硫酸アンモン、モランダム、黃血鹽類(加里及曹達)

カーバイト、フェロシリコン、カーボランダム、爆藥

三、アルミナ、アルミニウム、硫酸加里(アルミの副産物) ニツケル

であつて、工場は興津(一の製品) 館山(一及二の製品) 樺太(一及二の製品) 廣田(二の製品) 鹽尻(二の製品) 興津(火藥工業所) 横濱(アルミナ、硫酸) 大町(アルミニウム) 夏目ニツケル製練研究所及契島ニツケル粗製工場等あり、又日本火工を子會社とし

て持つてゐる。これは指定工場で爆薬を製造する。

一、及二の各化學藥品は今までの當社營業收益の内容をなしてゐるが、三の分は今後の成果を俟つもので、アルミニウムは既に其の成功を見、信州大町工場で愈々工業的製出に従ふ事になつた。日本でアルミニウム製造に成功した鼻祖である。

現在日産五噸であるが、將來は七噸まで増産する筈で、これが出て時價一千九百圓と言ふ値で賣れる事になると當社の収益力が大なる向上を見るは言ふまでもない。

現在一割二分の配當をして居る。昭和肥料の子會社である。將來は沃度工場、火藥工場、アルミナ工業所アルミニウム工業所、ニツケル研究所等を獨立せしめホールディングカンパニーとして立つ様になるであらう。

株價は非常に高く、浮動株が少いので少しの買物ですぐ上る。近い將來に株式の公開が行はれるさうであるが、現在は百七十二圓の値を出してゐる。將來の増資を考へるとまだ買つて損はなし、押目があつたら是非買つて置き度いものと思ふ。

以上二社の外前に書いた日本窒素の子會社朝鮮窒素及三菱鑛業がアルミニウムの製造に着手してゐる、兩社にとつて將來の好材料であるから記憶して置く必要があらう。

其他の化學工業會社

日本硫黃 當社は百萬圓の會社であつたが今度二百萬圓に倍額増資した。二月末の舊株主に一株に對し一株割當て、三月末十二圓五十錢の拂込をとるのである。配當は一割特配が二分ついてゐるので現在百五圓の値を出してゐる。五分七厘の利廻になるが、五分五厘利廻まで買つてもよいと思ふ。五圓方の騰貴餘力が残つてゐるわけだ。新株は四十圓まで買つても充分採算に乗る。

當社は名の如く硫黃を製造するが、今度の増資資金で二硫化炭素の工場を名古屋に新設するので、現在の加工品生産能力一萬三百餘噸は一萬二千七百餘噸に増加する。二硫化炭素は人絹の製造に使用されるので需要は増加する一方である。硫黃の需要も増加してゐる製紙用に多く使用される。

八年下期の利益率は三割四分二厘であつたから増資後の一割二分配當に不安はない。小さいが内容もよく好投資物であらう。

日本酸素 資本金百五十萬圓全額拂込の會社で配當は八分である。八年下期の利益率

二割二分に及んでゐるから今期は更に好く、二分の増配が豫想される。

酸素は鐵鋼、鐵工、建築等酸素溶接に使用されるので、需要は當分無限である。増資の計畫もあると言ふが、現在の株價八十八圓五は一割配當には五分七厘の利廻り、充分買餘地を残してゐる。

日本火藥

資本金二百五十萬圓、拂込百六十萬圓の小會社であるが、火藥工業會社中一等成績がよい。八年下期には實に九割三分五厘の利益率を收め、配當は一割二分を行つた。それ以前も毎期一割配當を續けてゐるから如何に内容のよい會社であるかゝわかる。

爆藥は最近鑛山の殷盛と土木事業の遂行とで、需要激増し、値段は上つて居らぬが、賣行きが多い爲めにコストは安くつき、利益は上記の如く増えたのである。今後此の狀勢が續く事は産金、銅、石炭、鐵、セメント原鑛等の採掘事業の活躍で充分期待される。

傍系會社に金の採掘會社がある。これが二百萬圓からの投資になつてゐるが、若しうまく當れば非常な収益をもたらす。活目していゝ會社である。株價は一八六圓増資増配合みである。

東京硫酸

資本金百五十萬圓、全額拂込、發烟硫酸、強硫酸、純硫酸、H酸等を製造

してゐる。八年下期は九分配當を行ひ、一割八分の利益率であつたから内部保留が五〇%決算も手堅い。發烟硫酸は爆藥、石油精製、染料製造等に使用され時局を背景として頗る需要が多くなつてゐる。當社は不況期でも五分以上の配當を續けてゐる位で内容がよい今期は一割配當となるであらう。新たに染料の製造計畫も立てゝゐるから、これが成功すれば不況時代にも硫酸の自家消費が出来て打撃を少くする事が出来る。

株價は七十七、八圓で一割配當なら六分四厘の利廻りだからまだ割安である。

東海電極

資本金百萬圓拂込七十七萬五千圓の會社である。製品は一、炭素及黒鉛電

極 二、電刷子 三、炭素衛帶 四、エレマ製品 五、炭棒 六、カーボン等でこれらは電氣化學工業、各種電機器具、電力關係に必須なものばかりで、從來外國より輸入されるものが多かつた。晩近の諸工業は悉く電力を使用するから製鐵鋼、金屬製煉、化學工業、軍需關係、電力關係各方面から需要多く、將來の發展性に富む有望事業である。

當社は元大同電氣製鋼所の一部門であつたが大正七年四月に分離獨立したのである。創立以來昭和五年下期までは五分配當を行つてゐたが、其後三期間無配となり七年下期五分配當を復活八年上期には一割、下期には一割二分と増配し、八年下期の利益率は三割一分

の好成績であつた。

前述の通り發展性のある事業であるから業績の前途に不安なく増配も期待される。株價は舊一〇三圓、新八十五圓（三十二圓半拂込）利廻り舊六分六毛、新四分六厘で新は拂込見越もあり、現在の配當のまゝでもまだ割安である。

日本カーボン 六十萬圓の資本で四十五萬圓の拂込、東海電極と同じ様な製品を出す會社である。八年下期七割三分の利益率で一割五分の配當をした。今期は八割位の利益率を擧ぐる事確實で増配をせぬ代りに増資をする。未拂込を徴集した上で、百五十萬圓にするのであつて舊株一株に新一株を割當て残り六千株を公募する、第一回の拂込は十二圓五十錢である。

株價は舊百五十五圓、新百廿四圓となつてゐる。これはまだ々々昂騰する事は確實だ。舊株を六分利廻りに買へば百二十五圓で新株のプレミアムを五掛とすると三十七圓五十錢、新株付なら百六十二圓五十錢まで買へる。しかし市場性が少いからそこまで買へぬとしても百六十圓位迄は大丈夫である。新株も拂込の二十五圓だけ少く百三十五圓まで買へる。増資後も一割五分配當がくずれる憂ひはないから安心してよい。

オリエンタル寫眞工業 資本金百五十萬圓全額拂込で、八年下期は利益金二十七萬

六千圓、率にして三割七分の成績である。配當は一割二分の据置であつた。昭和二年からずつと一割五分配當をして七年以上期まで來、其の後一割二分配當にしてゐるがこれは別に業績が悪くなつたからではなく何時も三割以上の利益率を得てゐる。配當を落したのは事業擴張の爲に保留利益を使用する目的で其の工事が漸く完成したので、今期からは又一割五分配當になる豫定である。

製品は寫眞用の印畫紙、乾板、藥品である。前記フィルム工場を建設中であつたが、これが出来上つたから近く賣出される筈で將來の發展は注目すべきものがあらう。

五十圓拂込の舊株は百二十二圓、四十五圓拂込の新株は百十六圓五十錢の値を稱へてゐる。今年十月は創立十五週年に當るので増資と五割の大特配が豫想されてゐる。

以上の外 主要な化學工業會社の一覽表を掲げて置く。

	資本金	配當	株價
日本染料	七、〇〇〇千圓	一・二〇割	一五五、〇〇〇（一二圓五拂込） 一五五、〇〇〇（一二圓五拂込）
日本ペイント	五、〇〇〇	〇・七〇割	六三、〇〇〇（三〇圓拂込） 三八、五〇〇（三〇圓拂込）

終

昭和九年三月二十日印刷
昭和九年三月十七日發行

東京市日本橋區兜町一ノ五

著作兼 發行人 中村貫一郎

東京市小石川區關口水道町四六

印刷人 音成貞吉

東京市日本橋區兜町一ノ五

發行所 正松野屋商店調查部

電話 長三三三三〇 三六八七

茅場町 (66) 三三三三一〇 四四三三
四八七二 二二四三 二五九二 一七二八